



# 慰安婦が奴隷でなかった証拠を 台湾で発見

道徳科学研究センター歴史研究室室長・教授

西岡力にしおか つとむ

三月に、歴史研究室の高橋史朗先生などと一緒に台湾へ歴史認識問題の調査に行きました。詳しい報告は、月刊『正論』七月号(六月一日発売)掲載の私と高橋先生の対談をお読みいただきたいのですが、私のライフワークの一つである慰安婦問題研究で重大な発見をしました。そのことをここで皆様と共有させていただきます。

台北で台湾出身慰安婦に関する民間博物館を見学しました。「阿嬷の家 平和と女性人権館」といい、女性の人権に関するNGOの「婦女

救援基金会」が、平成二十八年(二〇一六)十二月に開館させました。「阿嬷」は「おばあさん」という意味です。同年三月の看板除幕式には当時の馬英九総統が出席しています。驚いたのは、元慰安婦名義の預金通帳が展示されていたことです。昭和二十年(一九四五)一月現在の残高は、二万四〇〇四円六五銭と記されていました。博物館の英文説明は慰安婦をsex slave(性奴隷)と書いていたのですが、当時としては多額の預金をすることができたのだから、無報酬で働かされ

る奴隷でなかったことは明白です。性奴隷という言葉は権力による強制連行の延長上で定義されるはずですが、奴隷という以上、対価などもらえるはずがないのです。ところが、通帳には二万四〇〇〇円もの残高があるわけです。展示されていた預金通帳によれば、昭和十九年(一九四四)十二月七日に取引が開始され、まず五〇〇〇円が入金されています。昭和二十年(一九四五)一月〇日(インクがにじんで判読不能)に利息が四円六五銭つき、同じ日に八四〇〇円が入



展示されていた預金通帳

金されました。最後に、同月三十一日に一万六〇〇〇円が入金され、残高が二万四〇〇〇四円六五銭となっています。すぐ下に「上記残高相違無き事証明仕ル也」と書かれています。

隣に展示されていた残高証明らしい書類には「陳氏蓮花 台湾銀行 預金一件 金額二四、〇〇四・六五 円 業與(?) 受付登記」とあり、銀行の印らしきものが押されています。ここから、この通帳が戦地の軍事貯金の通帳ではなく、一般銀行である台湾銀行のものであることが分かります。

台湾銀行の通帳に二万四〇〇〇円が入金されていたということ、通帳の持ち主の陳蓮花氏が慰安婦として働いていた戦地から、故郷の台湾銀行の自分の口座に送り、それがきちんと届いていたということ、です。

すでに韓国人元慰安婦の文玉珠(ウルクヰジュ)さんは、二万六一四五円の貯金をしてきたことが明らかになってい

ます。文さんはビルマの慰安所で働き、多額の軍事貯金をしたとして日本政府を相手に貯金払い戻しを求める裁判を起こしました。通帳を紛失していたのですが、訴えられた日本政府が調べたところ、戦後、軍事貯金を引き継いだ郵便貯金の記録から貯金額が判明しました。

文さんの証言は論争となって左派の学者らは、「二万六〇〇〇円の通帳があつたのは事実だが、当時戦地はインフレで価値がなかった。だから当時の慰安婦の暮らしが裕福だった、と考えるのは間違っている」などと主張しています。しかし、文さんの手記では「大邱にいる家族に五〇〇〇円も送金した、大邱では千円あれば家一軒が買った、自分も休みの日に買い物に出かけルビーや毛皮を買った」とも書かれています。「ビルマでも高価なものが買え、送金した金を兄が使っていて帰国後、喧嘩した」ともあって左派の学者

の主張は明らかにおかしいと、私は著書『よくわかる慰安婦問題』草思社文庫などで反論してきました。

今回の発見で、いよいよこの論争の結果は明らかになりました。台湾人慰安婦の中にも二万円以上も預金できる人がいたということです。文さんは五千円を故郷に送金したと言っていました。台湾では二万四〇〇〇円を故郷の自分の銀行口座に送金できたのです。当時の台湾の物価からすると大変巨額の送金でした。

つまり、慰安婦は身分として売買対象となり、賃金をもらえずに働かされる奴隷ではなかったという事です。仮に借金の結果、こうしたところで働かざるを得なかったとしても、待遇は恵まれ、かなりのお金を稼げたケースもあって、それが朝鮮だけでなく台湾でも証明されたのです。性奴隷ではなかったと証拠が示しているわけです。

ではなぜ、台湾の慰安婦はわざ

わざ預金通帳を大切に保管していた博物館に寄贈したのでしょうか。彼女とすればせつかく稼いだこの大金を戦後使うことができなかつたことが、よほど悔しかったのです。

日本の敗戦後、台湾は国民党軍の統治下に入りました。戦後の日本と同じように激しいインフレもありました。多額の日本円預金を持つていたということが発覚すれば日本国に協力したとして国民党軍から迫害される恐れもあつたのでしよう。台湾で出会ったある本省人から、自分のお父さんが日本統治時代に商売に成功して多額の円を持つていたが、国民党軍にそれを知られると親日派だとして殺されるかもしれないと恐れて、持つていた円を川に流してしまつた、そのことを亡くなるときまで悔しがっていた、と聞きました。この通帳の持ち主の元慰安婦も同じ気持ちから通帳を大切に保管していたのではないのでしょうか。